

充実する救急医療

Emergency medical care

予期せぬけがや病気に対応する救急医療。本市の救急医療体制は、府内でもトップクラスの充実を誇り、皆さんの命を守り続けています。7月には、大阪府三島救命救急センターの機能が、大阪医科薬科大学病院に引き継がれます。ますます充実する市内の救急医療体制について2人のキーマンにお話を伺いました。

問 健康医療政策課 / Tel.661-9330



救急医療体制の仕組み

救急医療機関は、重症度や緊急性に応じて3段階に分けられます(下図)。

初期(一次)救急では主に入院治療の必要がなく帰宅可能な軽症患者に、二次救急は主に入院治療を必要とする患者に、三次救急は主に二次救急では対応できない高度処置が必要な重篤患者に対応します。

市内の初期救急は、地域の診療所の休診時間に「高槻島本夜間休日応急診療所」が担っています。二次救急は地域医療支援病院^(※1)5施設など、市内11病院が担っています。

そして、大阪府三島救命救急センターが担ってい

た三次救急(救命救急センター)の機能が、7月から大阪医科薬科大学病院に引き継がれます。

高槻は、初期から三次までの救急医療機関が揃い、特定機能病院^(※2)、地域医療支援病院5施設が所在している、府内でもトップクラスの医療のまちなのです。

(※1) 地域の診療所を後方支援する診療検査体制などを確保し、200床以上の病床を有する病院。本市では高槻病院、北摂総合病院、高槻赤十字病院、第一東和会病院、みどりヶ丘病院が承認されています

(※2) 先進的な高度医療を提供できる能力などを備えた病院。本市では大阪医科薬科大学病院が承認されています

症状・緊急性

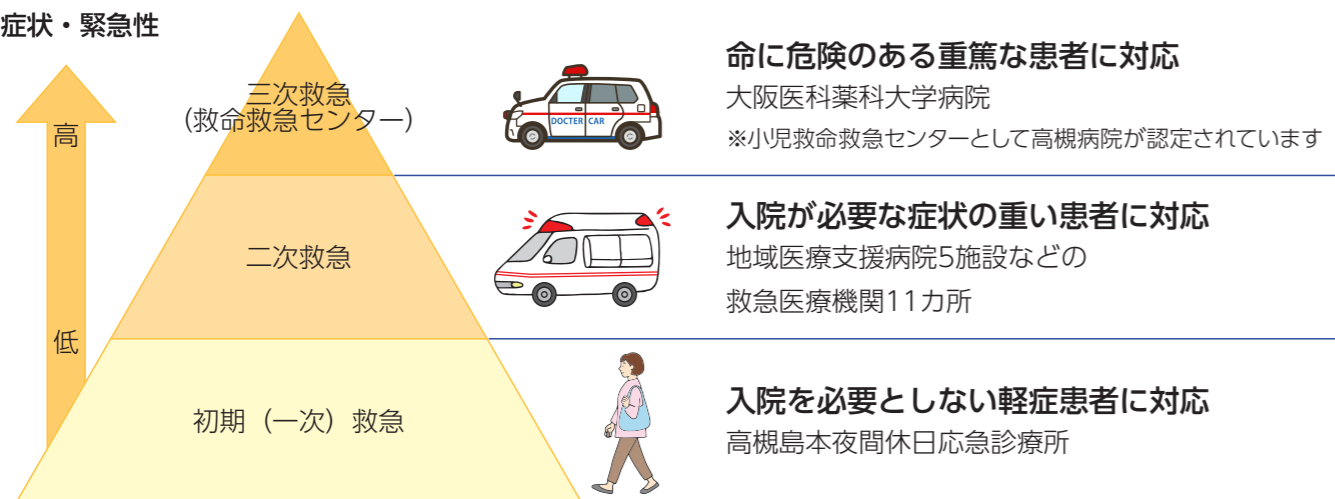


図1 3段階の救急医療体制

図2 市内の救急医療機関



【三次救急(救命救急センター)】

①大阪医科薬科大学病院救命救急センター
(7月から 大学町2-7)

【二次救急】

- ②医療法人健和会 うえだ下田部病院 (登町33-1)
- ③大阪医科薬科大学病院 (大学町2-7)
- ④大阪医科薬科大学三島南病院 (玉川新町8-1)
- ⑤医療法人東和会 第一東和会病院 (宮野町2-17)
- ⑥社会医療法人愛仁会 高槻病院 (古曾部町1-3-13)
- ⑦高槻赤十字病院 (阿武野1-1-1)
- ⑧社会医療法人仙養会 北摂総合病院 (北柳川町6-24)
- ⑨社会医療法人祐生会 みどりヶ丘病院 (真上町3-13-1)
- ⑩医療法人美喜和会 美喜和会オレンジホスピタル (奈佐原10-10)
- ⑪医療法人光愛会 光愛病院 (奈佐原4-3-1)
- ⑫医療法人大阪精神医学研究所 新阿武山病院 (奈佐原4-10-1)

【初期(一次)救急】

⑬高槻島本夜間休日応急診療所 (南芥川町11-1)
(来年4月から⑭八丁西町1-10へ移転予定)

SPECIAL
Interview

1

高度な医療機能を備える 大学病院が担う「救急医療」

7月から三島医療圏（※）唯一の三次救急医療を担う大阪医科薬科大学病院。特定機能病院として高度な医療を提供する大学病院が新本館の建て替えで、より充実した医療体制に。市民の命を守る大学病院の取り組みについて、植木理事長に伺いました。

（※）高槻市、茨木市、摂津市、島本町のエリア



学校法人大阪医科薬科大学 理事長

植木 實

Minoru Ueki

病院新本館の建て替え 高機能・最先端の超スマート医療へ

現在の本大学病院の建物は、主な5つの病棟が築40年以上となること、また当時の制限によりどの建物も高さが6階のため、機能が建物ごとに分散し、患者さんやスタッフが建物間を移動しなければならず、いま一つ利便性が高くありませんでした。

そのような中、令和9年に創立100周年を迎えるにあたり、記念事業として病棟の建て替え事業を進めています。すでに中央手術棟と最先端がん治療施設「関西BNCT共同医療センター」は完成し、高度治療が可能な施設として稼働しています。

そして7月に開院する新本館A棟は、この事業のメイン。1階には、三島医療圏の三次救急医療を担う「救命救急センター」が入り、重症・重篤な救急患者に対して即座に手術などの治療を行える設計になっています。また、感染症対策として専用エリアも設け、新型コロナウイルス感染症を含む全ての感染症に対応できるようになっています。

さらに、あらゆる高度な機器を上階に配置していて、専用エレベーターで迅速に移動できるため、非常に利便性が良くなっています。救急医療施設として万全の設備・機能を備えています。

コンセプトは「超スマート医療（Super Smart Hospital）」。AIやロボットなど先端技術を活用した高度医療の提供のほか、病院の快適性（※）の向上、優秀な医療人材の育成など、患者さんやご家族、そしてスタッフに優しい医療を目指しています。

優秀な人材育成を追求 「至誠仁術」の精神をもって

本大学病院には、常勤で約650名、非常勤で約270名の医師が勤務し、あらゆる分野の医療に携わ

っています。救急医療には約30名の医師が対応し、24時間365日、全ての診療科と連携しながら対応します。高度な専門治療が必要なときは、各科から専門医が治療に当たれるよう、万全の体制を整えています。

また教育機関として、本大学は「至誠仁術」を学是としています。「至誠」とは、人が人間性を追い求めると誠実・篤実あるいは清廉性の境地に到達すると言われており、そのような誠実・篤実性のある人物が施す医療を「仁術」と言います。この学是に基づく、次代を担う良質な医師、薬剤師、看護師などの医療人の育成を目指しています。

「救急医療は医の原点」 理念を受け継ぎ救命救急に尽力

大阪府三島救命救急センターの救命救急センター機能を、本大学病院が引き継いだことは、三島医療圏における救急患者の最後の砦として責務を担うことを意味します。

大阪府三島救命救急センターの初代所長の田邊治之先生が持っておられた「救急医療は医の原点である」「救急医療は公平であり、その享受するところの利益は、万人同じでなければならない」という理念をしっかりと受け継ぎながら、重症患者を積極的に受け入れ、救命治療を行います。

今後とも行政や地域の医療機関と連携しながら、市民の皆さんの救命救急を含め、医療の一層の充実・向上を図ります。

（※）バイオフィリアという概念を取り入れ、自然とふれあうことで健康や幸せを得られる空間を目指す

植木 實さん

大阪医科大学卒業、同大学院修了（医学博士）。同大助手、助教授を経て、平成7年に教授。専門は産婦人科学。大阪医科大学病院長、大阪医科大学学長を経て、平成22年から学校法人大阪医科大学理事長。平成28年から現職の学校法人大阪医科大学理事長



SPECIAL
Interview

2

市民に身近な地域医療 健康で幸せな生活を守る

市内の医療機関をまとめる高槻市医師会。約270の医療機関、670人以上の医師で構成され、救急医療やがん検診など日々市民の皆さんの健康、生命を守る活動をしています。新しく就任した保田会長に、取り組みや想いを伺いました。

高槻市医師会

高槻市医師会



一般社団法人高槻市医師会 会長

保田 浩

Hiroshi Yasuda

地域に根差した医療体制を培う

高槻市には、公立病院がありませんが、それは、昔から医師会が中心となって、各医療機関の得意分野を生かし、医療体制を構築してきた歴史と関係していると考えています。当会では、全国に先駆けて医療機関が休診している夜間や休日に救急患者の対応を開始し、この取り組みが高槻島本夜間休日応急診療所の設立の契機になりました。現在でも応急診療所には医師会の会員が出務していて、私も40年近く同診療所で初期救急に携わってきました。

また、多くの会員と同様に、私も自身のクリニックを開業し、小児科医として日々診察をしながら、診療時間の合間に校医や地域健診などにも関わっています。高槻市医師会は、会員の専門分野を生かし、地域に根差した医療を培ってきたと自負しています。

日頃の健康状態を把握している 「かかりつけ医」を持つことが大切

人生100年と言われるこの時代。市民一人一人がより長く健康で過ごせるよう、医師会は行政とタッグを組んで、健康診断やがん検診の受診環境を整えています。

特に高槻市では、がん検診の無料化のほか、ピロリ菌検査、内視鏡検査を導入するなど精度の高い検診体制を確保し、早期発見・治療につなげています。

また、早期発見・治療には「かかりつけ医」を持つことが大切です。日頃の健康状態を把握している「かかりつけ医」は、ちょっとした体調の変化にも気付きやすく、的確な診断やアドバイスもできます。必要なときは専門の医師や医療機関も紹介してくれます。高槻には多くの病院や診療所がありますので、信頼できるドクターをぜひ見つけてください。

救急患者を守る医療機関の連携

本市で特徴的なのは、医療機関同士の連携が強いこと。私も、入院が必要と判断した患者さんの受け入れを、市内の連携病院に依頼することがありますが、とてもスムーズにいきます。大きな病院が多いという点もありますが、何より、地域のかかりつけ医と大きな病院が日頃から連携し、協力関係を構築しているおかげです。

市内での救急事案の96.4%を市内病院で対応できていると聞いていて、救急患者が1カ所に集中せず、市内で初期、二次、三次救急にすべて対応できる点は、本市の救急医療体制の特色だと考えています。

早期に治療が開始できることはもちろん、自宅に近い場所で快復に向けた治療を継続できる医療機関が数多くあるのも、このまちの魅力です。結果的に全国でもトップクラスの高い救命率・社会復帰率を誇っているのです。

全国に先駆けて災害医療を推進

地震などの災害医療についても、平成19年に医師会が中心となって災害医療救護訓練を開始しました。救急搬送やトリアージなど災害医療に特化した訓練は、当時全国でも例がないものだったそうです。

最近では、新型コロナワクチン接種や、患者の診療検査など、厳しい局面が何度もありましたが、医療機関同士、医師同士が連携・協力し、行政とともに乗り越えてきました。

今後も、市民の皆さんが安心して医療を受けられ、健康で幸せに暮らせるよう、地域医療の向上に努めたいと思います。

保田 浩さん

大阪医科大学卒業、同大学院修了（医学博士）。同大小児科学教室を経て、平成7年「やすだクリニック」開業。一般診療だけでなく予防接種、乳幼児健診、園医・校医、産業医など地域医療に携わる。高槻市医師会理事・副会長を経て、令和4年6月から会長に就任



Takatsuki Medical NEWS

医療ニュース

高槻の医療は、府内でもトップクラスの体制を構築しています。本市の医療に関する最新情報をお伝えします。

大阪府三島救命救急センターが6月末で閉院し、大阪医科薬科大学病院が7月1日から三次救急医療機関の認定を受けます。

重篤な三次救急の患者は、同大学病院の新本館A棟1階に整備された救命救急センターに搬送され、即座に高度な救急医療を受けることができます。

災害拠点病院※が一つに集約

府が指定する災害拠点病院は、これまで大阪府三島救命救急センターと大阪医科薬科大学病院でしたが、7月からは大阪医科薬科大学病院に機能が集約されます。十分な敷地と、高度な医療、人的体制、災害時でも持続可能な施設など、緊急時の対応力の向上が図られます。

※災害時に重症・重篤患者の受け入れなどが可能な病院



01 7月から 救命救急センター 機能の引き継ぎ



▲新本館A棟（中央）1階に整備される救命救急センター（イメージ）

特別救急隊（ドクターカー） 大学病院と連携

平成18年から本格的に救命救急センターと市消防本部が協働で実施している特別救急隊（ドクターカー）事業。医師が救急車に同乗し、1秒でも早く治療に当たることで、救命後、後遺症を残さず社会復帰した患者も数多くいます。

7月からは大阪医科薬科大学病院が運用を引き継ぎ、患者の対応に当たります。

問 市消防本部救急課 TEL674-7979

02 来年4月から 夜間休日 応急診療所の移転

来年4月には、高槻島本夜間休日応急診療所が、弁天駐車場跡地（八丁西町、11ページに地図）に移転します。

4月からの供用開始に向けて建築工事などを進めていますが、直前の3月の診療までは、これまでどおり、南芥川町の現在の施設で診療を行います。

新施設では、敷地内に駐車場を整備するとともに、感染症患者の専用エリアの設置や、リアルタイムの待ち人数をインターネットで確認できる機能の導入など、より利用しやすくなります。

利用方法など詳細は、追って本誌や市ホームページなどでご案内します。



▲弁天駐車場跡地へ新築移転する高槻島本夜間休日応急診療所（完成イメージ）

医療体制の充実 さらなる飛躍へ

本市の救急医療の特徴は、何と言っても、初期救急から三次救急までが揃った、充実した医療体制にあります。

初期救急を担う高槻島本夜間休日応急診療所、二次救急を担う11カ所の医療機関、三次救急を担ってきた大阪府三島救命救急センターのほか、医師が同乗し救急現場に向かう特別救急隊。それらが密接に連携し機能してきた結果、府内でもトップクラスの市内搬送率、社会復帰率を誇っています。

この7月からは、救急医療の最後の砦となる三次救急機能が、高度な医療機能を備える大阪医科薬科大学病院へ引き継がれることで、市民の命を守る救急医療体制がさらに充実します。

また来年4月には、初期救急を担う高槻島本夜間休日応急診療所が移転し、新たな施設、設備の整った診療所としてリニューアルします。

これらは、新型コロナへの対応を始め、日々医療の最前線で診察・治療に当たってこられた医療関係者の皆さまのたゆまぬ努力と真摯な取り組みがあつてこそ。これからも市民の皆さまが安心して医療を受けることができる体制を整え、命を守ることに、行政と医療関係者が一丸となって、全力で取り組んでまいります。

高槻市長
濱田剛史

